

---

# 平成23年度予算第一特別委員会質問要旨

---

○ 局別審査

平成23年3月3日

質問者（質問順）

- 1 串田久子 委員（無所ク）
- 2 関美恵子 委員（共産党）
- 3 工藤裕一郎 委員（ヨコ会）
- 4 横山正人 委員（自民党）
- 5 鈴木太郎 委員（自民党）
- 6 五十嵐節馬 委員（民主党）
- 7 加納重雄 委員（公明党）
- 8 菅野義矩 委員（民主ク）
- 9 荻野慶子 委員（ネット）

こども青少年局



## 局 別 審 査

1 串 田 久 子 委 員 (無 所 ク)

### 1 放課後児童クラブについて

- (1) 基本補助と加算補助の方式にした理由を伺いたい。
- (2) 各クラブの規模に応じた1クラブあたりの基本補助額を伺いたい。
- (3) 加算補助の増額による各クラブでの影響額を伺いたい。
- (4) 標準、大規模に比較して、小規模クラブの補助額が非常に低いのではないかと考えるが、どうか。
- (5) 児童が1人減ってしまうだけで、補助金が大幅に変更になってしまう積算方法についての課題を伺いたい。
- (要望) 障害のある児童の参加に係る現場支援のために、専門的な知識の習得や関連する各機関との連携強化を行ってもらいたい。

### 2 児童虐待対策について

- (1) こども青少年局は、この事案について把握していたのか。
- (2) 区からの報告を受けたのは誰か。
- (3) 報告を受けた局はどのような対応をしたのか。
- (4) 浜松市から依頼を受けたのはいつか。また、依頼を受けた部署はどこか。
- (5) 受けた依頼の内容は。
- (6) 児童が死亡したと聞いたのはいつか。
- (7) 児童が死亡したのはいつか。
- (8) 12月14日から1月19日までの間に、母親とコンタクトをとる機会があったと思うが、どうか。
- (9) どのような機会があったと考えるか。
- (10) 12月20日に児童扶養手当の請求に来庁した際に社会福祉職員から保健師へと相談票が引き継がれたが、そのことをどのように考えるか。

- (11) 浜松市から送付された文書資料を確認したのはいつか。
- (12) その具体的な日にちはいつか。
- (13) 転入引き継ぎ事例の調査はどの程度行われ、蓄積されているのか。
- (14) 他都市からの引継は、電話と文書のどちらの方が多いのか。
- (15) 他都市からの引継は重大であるという意識をもって受け取るべきと考えるかどうか。
- (16) 一般的に、転入引き継ぎ時、どのように対応することになっているのか。
- (17) 確認が遅れた理由は。
- (18) 文書を受領した1月4日から連絡した19日まで期間が空いたのはなぜか。
- (19) 1月20日に区から連絡があった際の局の所管課長の対応は。
- (20) 本件はケース検討すべきだったのではないか。
- (21) 本件は、警察への情報提供は行ったのか。
- (22) 支援が必要であるとの情報は、警察に提供したのか。
- (23) 警察への連絡は課長ではなく医師である区福祉保健センター長が行うべきではないか。
- (24) 市議員が資料要求した際に「資料は存在しない」と回答されたが、隠蔽行為であり強く抗議する。見解を伺いたい。
- (25) 行政の不都合な部分を黒塗りにして隠蔽している。このような情報提供のあり方が問題である。見解を伺いたい。
- (26) プロジェクトで検討しているなかで、このような事件が起きたことに対する見解を伺いたい。
- (27) 本件に対して、区でも認識を持つべきではないか。
- (28) 今後は、どこに軸足をおいて児童虐待防止を進めていくのか。

1 横浜市子ども・若者支援協議会について

(1) 他都市に先駆けて「協議会」を設置した意義と目的を伺いたい。

2 中間的就労について

(1) 中間的就労というのは、どのようなものを想定しているのか。

(2) 若者の就労支援にあたっては、個々の若者の状態に応じた見立てをすることが大切だと思うが、どうか。

(3) 中間的就労を進めるために理解ある企業をどのように開拓しようとしているのか、またその課題は何か。

(4) 中間的な就労の仕組づくりにあたって、当事者である若者の意見をどのように求め、協議会の検討内容に反映していこうとしているのか。

(5) 経済的に自立できない若者に対して本市としてどのような支援をしようとしているのか。

(6) 中間的就労については、各局が連携して全庁的に取り組む必要があると考えるが、どうか。

### 3 工 藤 裕一郎 委員（ヨコ会）

#### 1 困難を抱える若者の自立支援について

- (1) ひきこもりの若者の6割が関係機関に相談したくないと答えている事態をどのように考えているのか。
  - (2) よこはま若者サポートステーションの利用状況について伺いたい。
  - (3) 利用者が連絡してきたら迅速に対応できるよう、若者サポートステーションなど相談支援機関の利用方法を改善出来ないか伺いたい。
  - (4) 若者サポートステーションでは、長期のひきこもりの経験者などが就労に向けて社会性を身につけるために、どのような訓練をしているのか。
  - (5) よこはま型若者自立塾では、具体的にどのようなプログラムを実施し、その成果はどうか。
  - (6) 企業でのインターンシップの実績と、今後どのような形で受け入れ企業に理解を求めていくのか。
  - (7) 困難を抱える若者が地域の方々と共に、地域の課題解決に取り組むことの必要性について、見解を伺いたい。
- (要望) 各局が連携して、困難を抱える若者が地域の方々と課題解決に取り組む機会を創出するよう要望します。

#### 2 プレイパーク支援事業について

- (1) プレイパークとはどのようなものなのか。
  - (2) プレイパークの利用状況、及び拡充していくには何が課題となるのか。
  - (3) 小規模なプレイパークが、身近な公園で展開できないか。
- (要望) 次世代につながる子どもたちが自己を確立していくために、さらにプレイパーク事業を展開していくことを要望します。

#### 4 横山正人委員（自民党）

##### 1 家庭保育福祉員制度について

- (1) 鶴見区の家庭保育福祉員で死亡事故が発生したが、事故の概要はどのようなものか。
- (2) 当該家庭保育福祉員は、何人の福祉員で何人の子どもを保育しているのか。
- (3) 家庭保育福祉員における安全対策として、本市ではどのようなことを行っているのか。
- (4) 事故当時、当該家庭保育福祉員は1人で保育を行っていたとのことだが、救急搬送の際に、他の児童はどのようにしていたのか。

##### 2 乳幼児健康診査未受診者対策について

- (1) 母子保健システムの構築などの未受診者対策を強化するということだが、具体的には何をするのか。
- (2) 23年度はシステム基本設計とあるが、いつ稼働するのか。
- (3) なぜシステム構築にそれだけ時間がかかるのか。
- (4) システム化をすることで、どのような効果があるのか。
- (5) 未受診者に対して電話だけで状況がわかるのか、訪問するべきではないかと考えるが、どうか。
- (6) 訪問ではどのように未受診者の状況を確認するのか。
- (7) 訪問を拒否された場合はどうするのか。
- (8) 一歩進めて、訪問拒否などの場合は、一定の公権力の行使が必要と考えるがどうか。
- (9) 不適切養育や虐待が疑われた場合はどうするのか。
- (10) 今回の青葉区の事例について、区福祉保健センターでは、引継の内容をどの職位レベルまで把握し、対応を判断したのか。
- (11) 係長すら事案を把握していない状態について見解を伺いたい。
- (12) 今回の青葉区の事例について、対応が遅れたのはどうしてか。

(13) 青葉区の事例を受けて、局としてどのように対応するのか。

### 3 児童虐待対策について

- (1) 港北区の検証報告について所感を伺いたい。
- (2) 戸塚区の検証報告について所感を伺いたい。
- (3) 瀬谷区の乳児死亡事件について所感を伺いたい。
- (4) 瀬谷区の事案について検証委員会による検証を行わないのは、なぜか。
- (5) 当局の検討の結果は常任委員会で報告されるのか。
- (6) 一時保護の意思決定方法は、どのように行われているのか。
- (7) 一時保護の判断を適切に行うための今後の取組について伺いたい。
- (8) これまでの一時保護所の定員数や入所者数の推移について伺いたい。
- (9) 北部児童相談所一時保護所の概要について伺いたい。
- (10) 北部児童相談所一時保護所が整備されることによる効果について伺いたい。
- (11) 児童相談所の職員体制がどのように充実されるのか。

### 4 待機児童対策について

- (1) 23年度の保育所入所申込及び一次選考の状況について伺いたい。
- (2) 入所保留となった児童に対し、4月に向けてどのような対応を行うのか。
- (3) 港北区の一次内定数が1,000人、保留数が640人と大変厳しい状況だが、どう見ているか。
- (4) 4月に待機となった児童にどのような対応を行うのか。
- (5) 私立幼稚園預かり保育実施園を105か所まで増やすために、どのような取組を行うのか。
- (6) 横浜保育室から預かり保育を実施している幼稚園に入園できるような仕組みを作るべきと思うが、どうか。

### 5 子ども手当について

- (1) 児童手当は、子ども手当と制度上どのような違いがあるのか。
- (2) 児童手当を支給するための財源はどうか。



- (3) 児童手当を支給する場合の本市の事務における課題にはどのようなものがあるのか。
- (4) 児童手当を支給するにあたり、どのくらいの事務量及び期間がかかるのか。
- (5) 児童手当を支給する場合、第1回目の支給はいつになるか。
- (6) このような事務の重複や混乱による無駄に対して、事務責任者として局長はどのように考えているのか。

5 鈴木太郎 委員（自民党）

1 重症心身障害児施設の整備について

- (1) 市内の重症心身障害児の施設入所の状況と、在宅重症心身障害児の現状はどうなっているのか。
- (2) 整備する用地の条件は、具体的にどのようなものか。
- (3) 運営法人に求められる基本的な条件と、運営法人の選定はどのような視点で行うのか。
- (4) 法人を選定するにあたっては、運営法人の対象をある程度絞り込んだ形での選定も有り得ると思うが、どうか。
- (5) 新たに整備する重症心身障害児施設は、どのような点を特色としていくのか。
- (6) 求められる機能が発揮されるためには、中期4か年計画で示されている27億円という予算規模で足りるのか。
- (7) 中期4か年計画の27億年にこだわらずに進めていくのか。

6 五十嵐 節 馬 委員（民主党）

1 保育コンシェルジュについて

- (1) 保育コンシェルジュの配置において、どのような課題認識をもっているのか。
- (2) 保育コンシェルジュの業務内容と役割について伺いたい。
- (3) 保育コンシェルジュが配置されることで保護者にとってどのようなメリットがあるのか。

2 乳幼児一時預かり事業について

- (1) 認可外保育所を活用した乳幼児一時預かり事業の目的を改めて伺いたい。
- (2) 実施施設を増やしていくうえで、どのような課題があるのか。
- (3) 課題を踏まえて、事業を拡大していくために、今後どのような取り組みをしていくのか。

3 児童虐待対策について

- (1) 子ども・家庭支援相談事業になぜ心理嘱託員を配置するのか。
- (2) 心理嘱託員の配置は、今後どのように展開していくのか。
- (3) 1児童相談所あたり職員が担当する平均件数を伺いたい。
- (4) 児童相談所の職員の平均在職年数を伺いたい。
- (5) 児童虐待対策における人材育成の進め方について伺いたい。
- (6) 今後、要保護児童対策地域協議会活性化にどのように取り組んでいくのか。

4 青少年相談センター、若者サポートステーションについて

- (1) 現在、年間どのくらいの相談件数があって、そのうち、ひきこもりを理由とする相談が何件あるのか。
- (2) 長期間にわたってひきこもり状態にあった若者に対して、どのような相談支援を行っているのか。
- (3) 家庭訪問による相談事業はどのようになっているのか。

- (4) ユースサポーターによる訪問事業の今後の展開について、どのように考えているのか。
- (5) 青少年相談センターと若者サポートステーションとの関係や役割分担はどのようなになっているのか。
- (6) 生活・しごと若者相談室の利用者数と相談内容の特徴について伺いたい。
- (7) 青少年相談センターの今後のあり方についてどのように考えているのか。

## 5 放課後児童クラブについて

- (1) 法人運営と運営委員会の放課後児童クラブ、それぞれの保護者負担月額はどのくらいになっているのか。また、運営費に占める保護者負担の割合はどのようなになっているか。
- (2) 23年度予算における保護者の負担軽減について、どのように考えているのか。
- (3) 運営委員会が運営する放課後児童クラブでの金銭面の負担以外にどのようなものがあるのか。
- (4) 運営に係る保護者の負担軽減策を考えていく必要があると考えるが、どうか。(要望)さらなる保護者の負担軽減策を進めてもらいたい。

## 6 地域療育センターについて

- (1) 地域療育センター8館目整備の進捗状況はどうなっているのか。
- (2) 既存の地域療育センターにおける待機状況はどうなっているのか。
- (3) 待機状況改善について、現在、取り組んでいる対策にはどのようなものがあるのか。
- (4) 8館目整備が完了した以降の整備についてはどのように考えているのか。

## 7 DV被害者等対策事業について

- (1) 外国籍女性のDV被害の相談件数や外国籍女性が占める割合について伺いたい。
- (2) 外国籍女性のDV被害者に対し、どのような支援を行っているのか。

## 8 道志青少年野外活動センターについて

- (1) 道志青少年野外活動センター・キャンプ場の廃止に向けた検討を行ったのは  
どういう理由だったのか。
- (2) 改修するとした場合、どのくらいの経費がかかり、また、経費以外にどのよ  
うな問題や課題があるのか。
- (3) 仮に廃止するとした場合、廃止に係る経費、その他の課題はどのようなもの  
があるのか。
- (4) こども青少年局として、総務局が中心となって進める外部有識者による野外  
活動施設のあり方検討委員会での結論をどのように扱っていくのか。

1 児童虐待対策について

- (1) 青葉区の事案について、改めて副市長の所感を伺いたい。
- (2) 児童虐待対策プロジェクトの目的について伺いたい。
- (3) 港北区、戸塚区、瀬谷区の事案を通じて、何がわかったのか。
- (4) 青葉区の事案における母親の「精神不安」との報道は事実か。
- (5) 養育支援マニュアルの内容について伺いたい。
- (6) 区は「養育支援マニュアル」を使用することになっているのか。
- (7) 他都市から移管された不適切養育ケースの市全体と青葉区の件数について伺いたい。
- (8) 青葉区の件数のうち、1件は今回の事案なのか。
- (9) 青葉区の事案をマニュアルに沿って説明していただきたい。
- (10) マニュアルに記載されている台帳もないではないか。
- (11) 局長はなぜ現場に行って確認するよう指示しなかったのか。
- (12) 局長が説明を受けたのは、経緯、経過だけということか。
- (13) 文書を開封したのは1月6日と区作成の資料に記載されているが。
- (14) 本市は局長にきちんと説明がされないシステムになっているのか。
- (15) 引継に「不適切養育」とあれば虐待を疑うべきと考えるが、どうか。
- (16) 副市長は本件をいつ聞いて、どのように判断したのか。
- (17) 各区役所におけるこのような事案の検証の判断の責任者は誰か。
- (18) 検証の判断のこども青少年局の責任者は誰か。
- (19) 1保健所18支所にしたことによる危機管理、特に児童虐待対応への影響をどう考えるか。
- (20) 現在の職員数で対応できるのか。
- (21) 事務分掌規則に区役所の虐待対応の記載がないが、載せるべきではないか。
- (22) 医療機関との連携は。

(23) 病院は警察に通報するのみで、児童相談所、役所には通報しない。このようなシステムは変えていくべきではないか。

(24) 現在は医療機関や警察などと壁があるように感じる。この壁を見直さないといけないと考えるが、見解を伺いたい。

## 2 困難を抱える子どもたちへのセーフティネットについて

(1) 困難を抱える子どもたちに対して、地域でのセーフティネットの形成と寄り添い型の生活・学習支援の試みを始めた経緯について伺いたい。

(2) 各モデル区の取り組みの概要と進捗状況について伺いたい。

(3) 24年度以降については、この事業をどうするのか、継続するとすれば、どのように展開していくのか。

(要望) 横浜から始めたこの事業を、しっかりと検証し、国に対しても制度化を強く働きかけていくよう要望します。

## 3 児童福祉施設について

(1) 本市が所管する児童福祉施設の種別と箇所数について伺いたい。

(2) これまでの施設改修の実績と、今後の方針について、①耐震基準と②生活環境の充実の2点から伺いたい。

(3) 向陽学園の再整備をどのように進めるのか。

(4) 向陽学園への公教育導入による、児童の自立支援に対する効果について伺いたい。

(5) 横浜家庭学園への公教育導入の進め方について伺いたい。

## 4 学齢後期における発達障害児支援について

(1) 思春期年代に対する支援策として、どのようなことを行っているのか。

(2) 思春期における発達障害児支援の課題にはどのようなものがあるのか。

(3) 今後の取組として発達障害児への支援の拠点を市内方面別に拡充すべきと考えるが、どうか。

8 菅野義矩委員（民主ク）

1 児童虐待対策について

- (1) 青葉区の事件については、報告・連絡・相談ができていないと感じるが、どうなっていたのか。
- (2) 報告・連絡・相談ができていないことに対する見解について伺いたい。
- (3) きちんと対策をしていれば命を守ることができたと考えるが、どうか。

2 DV被害者対策及び児童虐待防止について

- (1) 配偶者に対する暴力は児童虐待に該当するのか。
- (2) DVを子どもが目撃しているケースはどのくらいあるのか。
- (3) 児童を保護する児童相談所とDV被害者の一時保護施設が具体的にどのように連携して支援を進めているのか。



## 9 荻野慶子委員（ネット）

### 1 DV被害者等対策事業について

- (1) DV被害者の緊急一時保護施設とはどのようなものか。
- (2) シェルターに対し、どのような助成を行っているのか。
- (3) シェルターを退所後、利用者はどうしているか。
- (4) ステップハウスはどのような役割を果たしているのか。
- (5) ステップハウスに対し、どのような助成を行っていくのか。
- (6) DVセンターには子どものメンタルケアを含めた対応が必要と思うが、見解を伺いたい。

### 2 NPO等を活用した家庭的保育事業について

- (1) 22年度の事業者からの応募状況について伺いたい。
- (2) 年度途中に開所した理由について伺いたい。
- (3) 施設の利用状況について伺いたい。
- (4) NPO等を活用した家庭的保育事業における保育者や、利用される児童それぞれのメリットについて伺いたい。
- (5) 家庭的保育のような小規模保育を拡げていくべきだと考えるが、どうか。

### 3 障害児居場所づくり事業について

- (1) 障害児居場所づくり事業の本年度末の整備状況について伺いたい。
- (2) 利用者の満足度や本事業に対する意見や要望をどのように把握しているのか。また、その内容について伺いたい。
- (3) 23年度予算ではどのような視点から見直しを図ったか伺いたい。
- (4) 児童福祉法改正と障害児居場所づくり事業との関係について市はどのように考えているのか。